

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：鍵浦 文子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Brief HIV stigma scale for Japanese people living with HIV: validation and restructuring using questionnaire survey data 《筆頭論文》	共著	2019年10月	AIDS care, 28;1-9.	アメリカで開発された HIV スティグマ尺度の日本語版を作成し、信頼性と妥当性の検証を行った。 Fumiko Kagiura, Teruhisa Fujii, Nobuko Kihana, Eiko Maruyama, Yuka Shimoji, Masayuki Kakehasi 担当：研究デザイン、データ収集、分析、論文執筆
2 (学術論文) Poor Schedule Management Leads to Discontinuity of Medical Attendance among Patients Infected with HIV 《筆頭論文》	共著	2019年3月	Health, 11(3), 277-288	23名への HIV 感染者へのインタビューデータをテキストマイニングの手法を用い、分類し、HIV 感染者が受診中断に至るまでの経験と行動について明らかにした。 Fumiko Kagiura, Megumi Shimada, Masayuki Kakehashi 担当：インタビュー、データの分析、論文執筆
3 (学会発表) Importance of Mental Health for the Adherence of Antiretroviral Therapy among Japanese Patients with HIV	共著	2020年11月	ANAC2020 CONFERENCE, Virtual	HIV 感染者 451 名から回収したアンケート調査の結果を元に、抗 HIV 療法に対してアドヒアランスが低い要因について検討した。年齢が若いこと (odds ratio (OR), 0.94; 95% confidence interval (CI), 0.90–0.99)、うつ尺度のスコアが高いこと (OR, 5.36; 95% CI, 1.7–17.19)、違法薬物の使用があること (OR, 6.22; 95% CI, 1.84–20.40) が有意に関連していた。 Fumiko Kagiura, Yuka Yasuo, Keiko Watabe, Satoi Kawaguchi, Tsugiyo Takayama, Kazuko Ikeda, Masami Higashi, Chieko Hashiba, Mayumi Jyozaki, Teruhisa Fujii, Masayuki Kakehashi 担当：研究計画、研究協力機関との調整、質問紙作成、データの分析、結果の考察、抄録・ポスター作成
4 (学会発表) 日本人 HIV 感染者のうつに関連する要因と精神科の受診率：質問紙調査の結果から	共著	2019年11月	日本エイズ学会学術集会、熊本	HIV 感染者の質問紙調査から、中程度以上のうつに関連していたのは、自尊心が低い、ソーシャルサポートスコアが低い、抗 HIV 薬の内服率が低い、過去 1 年以内の sex が無い、無職であった。 鍵浦文子、喜花伸子、安尾有加、佐々木晃子、池田和子、高山次代、川口玲羽柴知恵子、渡部恵子、城崎真弓、松山亮太、梯正之 担当：研究計画、研究協力機関との調整、質問紙作成、データの分析、結果の考察、抄録・スライド作成